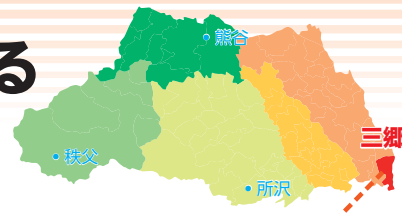


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー①⑦

まさあき
三郷市 木津 雅晟 市長 (67歳)



新しいアイデアで地域経済の活性化を
推し進めている木津雅晟市長

人にも企業にも選ばれるまちに

私は、市長に就任してから今日まで、「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」の実現に向け、市民の皆様にご協力をいただきながら、「第4次三郷市総合計画」の施策を着実に進めてまいりました。当市の人口に目を向けますと、昨年10月には、1996年（平成8年）1月以来となる最多人口を更新し、今年9月1日現在では13万5,000人を超え、着実に増えております。

そうした中で都市基盤の充実と整備に力を入れ、企業を誘致するとともに、魅力的で活力のあるまちづくりに取り組み、大型商業施設がある「ピアラシティみさと」や、「新三郷ららシティ」には、週末を中心に近隣都県からも多くの皆様にお越しいただき、賑わっています。

さて、本日のテーマについてですが、「ウーマノミクス」、「企業誘致」、「イメージアップ」の3つに分けて、順番にお話ししたいと

思います。

まず、当市の発展のために、市の将来を担う若い人にも住みよい環境を整えていかなければなりません。地域経済の活性化には、就労環境の整備が欠かせませんが、特に地域における労働力を確保するうえからも、女性が働きやすい環境を整備することが重要です。そこで当市では、働く女性の「仕事と育児」の両立を支援し、安心して子育てのできる環境を作るため、「地域で支える子育て支援の充実」を推進しております。

中学生まで医療費無料化を実現

その中で私は、2009年（平成21年）4月から県内他市に先駆けて、中学生までの医療費に掛かる入院費用を無料化しました。翌年の2010年（平成22年）10月には、通院費用にも無料化を拡大しました。また、近年課題となっている待機児童対策として、公立保育所の民営化や認定保育所による定員の拡大、さらには一時保育や送迎保育の実施・充実などに取り組み、待機児童の解消に努めてきました。今、待機児童をゼロにするという取り組みが行われていますが、当市ではゼロに近づけるという考えで、子育て世代を支援しているところです。

また、保育所以外の「仕事と育児」の両立支援策として、「みさとファミリー・サポート・センター」の運営にも力をいれてきました。このセンターは、子育ての援助を受けたい方を依頼会員とし、子育て援助を行いたい方を提供会員として組織し、地域の中で相互援助活動を行っています。現在、会員数が1,000人を超え、年ごとに支援の輪が広がり大きな力となってきました。このようなウーマノミクスの取り組みを通して、当市への転

入や定住する方々が増えれば、地域経済の安定化にも寄与するものと考えています。

企業誘致で地元雇用を促進

当市は1972年（昭和47年）の市制施行以来、交通の要衝として発展してきました。そこで、首都高速道路や常磐自動車道、さらには東京外郭環状道路などの広域道路網を中心とする交通アクセスに恵まれた立地特性を活かす施策として、企業誘致を積極的に推進しています。特に、三郷インターチェンジ周辺地域では、大きな商業施設の立地に加え、物流倉庫の集約化や効率化という企業ニーズを捉えながら、流通・業務系に特化した土地区画整理事業を実施しました。中でも、三郷インター南部土地区画整理事業地区では、企業ニーズの高い1万坪クラスの大規模街区を設定して、保留地2万7,000坪と共同売却街区2万1,000坪の土地売却が2011年（平成23年）までに完了し、現在7社の倉庫や工場が操業を開始している状況です。

この三郷インター南部土地区画整理事業は、2014年3月末までに工事が完了する予定で、全ての土地が使用収益開始となることから、今後も多くの企業が進出し、地区内全体で3,000人以上の雇用が創出されると期待をしているところです。

賑わいの創出で地域経済を活性化

まちの賑わいでは、つくばエクスプレスの開通や市内バス交通網の整備など、交通の利便性が大きく向上したことで、さらに活性化させようと、つくばエクスプレス三郷中央駅前の「におどり公園」で、今年も観光協会が



企業の進出が続く三郷インター周辺地区

主催するジャズとグルメ、キャンドルナイトの複合イベント「misatostyle2013」を開きました。また、商工会青年部による夏の風物詩「サマーフェスティバル花火大会」、あるいは「商工まつり・農業祭」を同時開催する産業フェスタなど、それぞれのコンセプトを明確にした大型イベントを開催しています。さらには、当市が誇れる特産品をとの声から、2012年（平成24年）2月に、市内の農家や酒販組合、醸造元など多くの皆様のご協力のもと、三郷市産のコシヒカリを使用した特別純米酒「におどり」を開発・販売し、好評を博すなど当市のブランドイメージの向上を図りました。このように市内の観光資源の発掘、創出を行って、これらの情報を市の情報発信スペース「ららほっとみさと」において紹介していくなど、さまざまな手法でまちがさらに賑わっていく施策を展開しているところです。

最後に、当市では今年3月に「日本一の読書のまち」を宣言し、子どもたちに「読書の楽しさ、知る喜び」を伝えるため、家庭や地域、学校、図書館が連携した読書活動を推進しております。また、安全・安心のまちづくりを押し進めるため、市内に防犯ステーションを設置するとともに、急速に進行していく高齢化に対応するため、高齢者の方の見守り拠点も設置しています。これからも市民の皆様と一体となって、全力で地域経済が元気になるよう、当市のあらゆる資源を活用した魅力あふれるまちづくりに取り組んでいく決意です。今回は、市長会でいつもお世話になっている蓮田市の中野和信市長にバトンタッチします。

三郷市の概要

人口(平成22年国勢調査)	131,415人
世帯数(同上)	51,132世帯
平均年齢(同上)	43.5歳
生産年齢人口比率(同上)	67.4%
面積	30.41平方キロメートル
名目市内総生産(平成22年度市町村経済計算)	3,124億900万円
事業所数(平成22年工業統計)	496事業所
製造品出荷額等(同上)	1,158億8,751万円
事業所数(平成24年経済センサス)	5,798事業所
年間商品販売額(平成19年商業統計)	1,707億5,228万円